

とちぎ Prefectural Newsletter of Tochigi

県民だより 10 月号 2012

VOL.259

編集・発行 栃木県広報課 平成24年10月7日発行

目次  
2面 とちぎ元気グルメまつり  
3面 県からのお知らせ  
4面 県政トピックス・文化情報 ほか

〒320-8501 宇都宮市塙田1-1-20  
TEL 028-623-2192 FAX 028-623-2160  
栃木県のホームページ <http://www.pref.tochigi.lg.jp/>

毎月第1日曜日発行(次回は11/4発行)



騎馬武者像(国重文・京都国立博物館蔵/左)、足利尊氏坐像(国重文・大分県安国寺蔵/右)

栃木県立博物館 開館30周年記念特別企画展

# 足利尊氏

その生涯と ゆかりの名宝

県立博物館では、開館30周年を記念し、10月13日(土)から11月25日(日)まで(月曜日は休館)、足利尊氏に関する特別企画展を開催します。現存最古の足利尊氏坐像をはじめ、尊氏ゆかりの資料約150点を展示する国内最大級の足利尊氏に関する企画展です。

上の写真を見て、どちらが足利尊氏だと思えますか。左の写真は、1980年代以前まで足利尊氏だと考えられていた騎馬武者像です。この騎馬武者の武具や馬具に描かれた家紋が、尊氏の家紋である二引紋(二引紋)ではなく、輪違紋(輪違紋)であることから、現在は尊氏本人ではなく南北朝時代の別の武将であると考えられています。右の写真は、現存最古の足利尊氏坐像であり、南北朝時代に作られたもので、今年度(平成24年)に指定された重要な文化財に指定された貴重な坐像です。尊氏の子、2代将軍義隆が京

都東山にあった寺院に奉納し、応仁の乱後に山科地蔵寺に移されたとみられています。その後、明治時代に安国寺にもたらされました。

## 尊氏が室町幕府を開くまで

元弘3年(1333年)、鎌倉幕府倒幕を企てたとして隠岐(島根県)に流されていた醍醐天皇は、厳しい監視の目をくぐり抜け隠岐を脱出し、各地の支持者に倒幕の命令を下しました。鎌倉幕府の有力御家人であった尊氏は、鎌倉幕府の実質的支配者である北条氏の支配

に不満を募らせていた他の御家人たちとともに天皇側につき、約140年間続いた鎌倉幕府を倒したのです。倒幕後、後醍醐天皇は京都に戻り、天皇を中心とした新しい政治「建武の新政」を始めましたが、重要事項の決定はすべて天皇と一部の貴族が行うなどの面が武士たちの反発を招きました。建武2年(1335年)、天皇の政治に不満を持つ武士たちとともに、尊氏が天皇に反旗を翻しました。翌年、戦いに勝利した尊氏は、後醍醐天皇の代りに別の天皇を立て、自らは京都に幕府を開きました。一方、後醍醐天皇は吉野(奈良県)に逃れ、足利政権に対抗したのです。2つの朝廷が並び立ち、60年にわたって争いが続いた動乱の時代半ばに尊氏はその生涯を終えたのです。

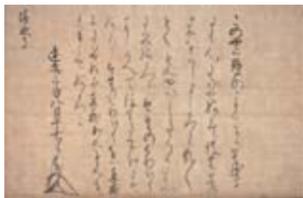
## 足利尊氏ってどんな人??

その1

### ～弟思いの尊氏～

足利尊氏は、嘉元3年(1305年)に足利貞氏と上杉清子の子として、生まれました。足利家は源氏の血筋で、下野国足利荘(足利市)を本拠とする莫大な経済基盤を有する名家でありました。尊氏には1歳違いの弟・直義がおり、尊氏にアドバイスをしたり、協力したりして、兄弟で室町幕府を開いたのです。尊氏が清水寺に納めた直筆の願文(神への願いごと)には、「この世の幸せを、すべて弟・直義に授け、直義を平穩に守っていただきたい」と書かれており、弟思いだったことがうかがえます。

足利尊氏直筆願文(国重文・常盤山文庫蔵)



## ゆかりの名宝

今回展示される2体の大日如来坐像は、平安時代の温和な表情の仏像に比べ、目や口などが顔の中心に寄り、鋭い顔立ちをしており、奈良県東大寺南大門の金剛

## ゆかりの名宝

尊氏が墓参りなどで足利を訪れ、菩提寺の榑崎寺にお参りした際には、両像を拝んだというとも考えられます。両像そろっての栃木県への里帰りは、はじめとなりません。

## ゆかりの名宝

特別企画展では、このほか尊氏直筆の和歌や、合戦の様子を描いた「太平記絵巻」などの大変貴重な資料も数多く展示します。栃木ゆかりの武将・足利尊氏の足跡をたどってみませんか。



大日如来坐像・国重文 (左)真如苑蔵、(右)光得寺蔵

力士像の作者として知られる運慶の作風をよく表しています。両像は、足利氏の菩提寺であった榑崎寺(足利市)の下御堂と赤御堂に安置されていたと考えられています。

## 足利尊氏ってどんな人??

その2

### ～三つの徳を持つ尊氏～

足利尊氏には、戦場での勇猛さ、敵方への寛容さ、部下への気前の良さの三つの徳があったといわれています。合戦の最前線に陣取った尊氏に、配下の武将は後ろにさがるよう勧めましたが、尊氏は聞く耳をもたず、ほほ笑みながら「合戦に負ければそれで終わりなのだから、敵が近づいてきたら自害する時機だけを教えてくれればよい」と答え、まったく動揺する気配を見せなかったといえます。また、家臣の見事な戦いぶりに感動し、その家臣に自身の腰刀や軍扇などを与えたともいいます。



尊氏が配下の武将に与えたといわれている日月図軍扇(九州国立博物館蔵)

## プレゼントコーナー!

「とちぎ県民だより」へのご感想をお寄せください。ご意見をいただいた方の中から抽選で15名の方に、**足利尊氏特別企画展の招待券(ペア)**を差し上げます。はがきに、郵便番号・住所・氏名・年齢・ご感想を記入の上、次のあて先までお送りください。〔締切:10/19(金)必着〕

〒320-8501 栃木県広報課  
「とちぎ県民だより」係

### アクセス

JR宇都宮駅・関東バス⑩・⑬番ホーム、または東武宇都宮駅前バス停から「桜通り経由鶴田駅行」「桜通り経由西川田駅行」のバスで「中央公園博物館前」下車(★)、「長坂経由鹿沼営業所行」のバスで「文星芸術大学附属中高」下車(★)

会期中は駐車場の混雑が予想されますので、公共交通機関をご利用ください。

【問合せ】県立博物館 ☎028-634-1312